

2016. 6. 24

---

プレスリリース

---

## 「内外の化繊工業の動向」

2016年 第1四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。  
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。  
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

## 概 要 (2016年第1四半期)

2016年1-3月のわが国の景気は輸出が増加したものの、個人消費に改善が見られず、設備投資が円高や中国経済などで不透明感が台頭して減少し力強さを欠いた。

このような中、化繊景況は紙おむつなどの衛材用は堅調だったが、衣料、産業資材用が低調に推移し、化繊生産は23.4万トン・前年比2.4%減となった。

### 国 内

- 1) 衣料用途は、国内向けが全般低調、中東向け民族衣装用など好調だったテキスタイル輸出も円高の進行で不透明感が台頭してきた。ユニフォーム・ワーキング用は備蓄一巡で低調、パンスト・タイツはインバウンド需要に支えられた。ブラックフォーマルは主力の百貨店向けが低調だった。保温肌着用は暖冬の影響で店頭販売が盛り上がりずアクリルスの出荷量が前年を下回った。インテリア用途は、カーペットがオフィス向けなどのコントラクト需要が堅調だったが、車両用が苦戦、カーテンはホームユース用が低調。衛材・生活資材用途は、中国向け紙おむつの製品輸出やインバウンド需要で好調を維持した。産業資材用途は、エアバッグ用が減速、タイヤコード用も織物および強力糸の高水準の輸入が続き、ポリエステル製では海外調達が殆どを占めた。カーシート用は自動車生産の停滞や合成皮革の浸食もありファブリックは苦戦した。土木資材は公共工事の一巡で低調だったが、建築資材は健闘した。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年比（以下同じ）0.9%減、化繊2.5%減、紡績1.1%減。在庫指数（期末）は、繊維工業全体が1.7%増、化繊2.8%増、紡績3.3%減。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで18.4億ドル・前年比（以下同じ）3.3%減、一方円ベースでは2,123.5億円・6.5%減。形態別（ドルベース）では、繊維原料2.8億ドル・26.3%減、糸類2.6億ドル・3.3%減、織物類5.6億ドル・1.4%増、二次製品他7.4億ドル・5.7%増。仕向地別（ドルベース）では、全体の28.1%を占めた中国が7.2%減の5.2億ドル、韓国（3.2%増）、香港（5.1%減）、台湾（9.4%減）、アセアン地域はベトナム（5.4%増）、タイ（3.3%減）、インドネシア（1.1%減）・マレーシア（12.5%減）となり、それ以外では西アジア（8.5%増）、欧州（4.7%減）、米州（3.3%減）であった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで90.0億ドル・前年比（以下同じ）1.5%減、一方円ベースでは1兆389.5億円・4.4%減。形態別（ドルベース）では、繊維原料1.6億ドル・0.5%増、糸類3.0億ドル・5.9%減、織物3.2億ドル・5.7%減、二次製品他82.2億ドル・1.2%減。仕出地別（ドルベース）では、全体の60.5%を占めた中国が4.9%減の54.5億ドル、韓国（1.3%減）、台湾（10.9%減）、アセアン地域は、ベトナム（4.7%増）、インドネシア（0.8%増）、タイ（1.7%減）、マレーシア（10.5%減）、それ以外では、イタ

リア（1.6%増）、米国（10.2%減）となった。

### 繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2014. 1-3	2015. 1-3	2016. 1-3	2015年比 (%)	2014年比 (%)
輸出	千ドル	2,017,616	1,906,851	1,843,610	-3.3	-8.6
計	百万円	207,145	227,187	212,350	-6.5	2.5
繊維原料	千ドル	412,090	386,419	284,754	-26.3	-30.9
糸類	〃	289,070	267,330	258,502	-3.3	-10.6
織物類	〃	584,631	556,409	564,227	1.4	-3.5
二次製品他	〃	731,824	696,693	736,126	5.7	0.6
輸入	千ドル	9,766,527	9,134,719	9,001,339	-1.5	-7.8
計	百万円	1,004,974	1,086,681	1,038,947	-4.4	3.4
繊維原料	千ドル	166,681	158,283	159,103	0.5	-4.5
糸類	〃	342,727	324,123	304,974	-5.9	-11.0
織物類	〃	354,133	336,190	317,018	-5.7	-10.5
二次製品他	〃	8,902,986	8,316,122	8,220,245	-1.2	-7.7
(うち衣類)	〃	(7,466,652)	(6,999,590)	(6,912,433)	-1.2	-7.4
輸出レート	円/ドル	102.7	119.1	115.2	-3.3	12.2
輸入レート	円/ドル	102.9	119.0	115.4	-3.0	12.2

(出所) 財務省

5) 化繊生産は23万3,735トン・前年比(以下同じ)2.4%減、うちセルロース繊維4万4,589トン・2.4%減、合繊18万9,146トン・2.4%減となった。期末(9月末)在庫は9万1,782トン・1.5%増、うちセルロース繊維1万7,790トン・4.6%減、合繊7万3,992トン・3.0%増であった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は13.8万トン・前年比(以下同じ)9.0%減。うち、繊維原料6.2万トン・18.9%減、糸類2.9万トン・1.5%増、織物類(面積ベース)1.44億㎡・2.6%増、二次製品2.4万トン・0.9%増となった。品種別では、レーヨンS7.5%減、ナイロンF7.5%減、ポリエステルF1.9%減、ポリエステルS21.3%減、アクリルS3.4%増、織物類(面積ベース)はナイロンF織物4.7%減、ポリエステルF織物3.0%増、ポリエステルS織物4.7%増であった。

化繊輸入(繊維原料～二次製品)は35.8万トン・前年比5.3%増。うち、繊維原料2.1万トン・34.9%増、糸類5.5万トン・0.9%減、織物類(面積ベース)は1.54億㎡・8.0%減、二次製品25.0万トン・5.6%増、うち衣類11.7万トン・3.2%増となった。品種別では、レーヨンS82.9%増、ナイロンFは1.5%増、ポリエステルF2.6%減、ポリエステルS41.3%増、ポリエステル紡績糸15.6%増、織物類(面積ベース)はポリエステルF織物8.3%減、ポリエステルS織物14.7%減であった。

## 化学繊維の主要指標

項目	単位	2014. 1-3	2015. 1-3	2016. 1-3	2015年比 (%)	2014年比 (%)
化繊生産	千トン	241.1	239.5	233.7	-2.4	-3.0
セルロース	〃	44.5	45.7	44.6	-2.4	0.1
合 織	〃	196.5	193.9	189.1	-2.4	-3.8
化繊在庫	〃	80.7	90.5	91.8	1.5	13.7
セルロース	〃	16.6	18.7	17.8	-4.6	7.2
合 織	〃	64.2	71.8	74.0	3.0	15.3
化繊輸出	千トン	151.9	151.5	137.8	-9.0	-9.3
	100万ドル	1,294.8	1,237.5	1,161.1	-6.2	-10.3
	億円	1,329.3	1,474.4	1,337.4	-9.3	0.6
繊維原料	千トン	79.4	76.6	62.1	-18.9	-21.7
糸 類	〃	28.8	28.7	29.1	1.5	1.1
織物類	百万㎡	135.5	140.8	144.4	2.6	6.6
二次製品	千トン	22.1	23.5	23.7	0.9	7.5
化繊輸入	千トン	343.2	340.3	358.3	5.3	4.4
	100万ドル	4,192.8	3,923.0	3,916.1	-0.2	-6.6
	億円	4,315.3	4,666.3	4,521.0	-3.1	4.8
繊維原料	千トン	15.8	15.6	21.0	34.9	32.6
糸 類	〃	52.7	55.7	55.2	-0.9	4.9
織物類	百万㎡	158.8	167.3	153.9	-8.0	-3.1
二次製品他	千トン	245.0	236.9	250.3	5.6	2.1
(うち衣類)	〃	(115.7)	(113.3)	(116.9)	3.2	1.0

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合織品種の動向は次の通り。

### <ポリエステルF>

2016年第1四半期のポリエステルフィラメントの生産は2万9,832トン・前年同期比8.1%減、3月末在庫は1万657トン・前年同月比6.1%減。

衣料用：国内向けは全般盛り上がり欠ける状況が続いた。ブラックフォーマルは百貨店・専門店向けが低調なまま。中東向け民族衣装「アバヤ」は数量を確保したが円高の進行や中東諸国の景気悪化が懸念された。遊泳用水着は昨年8月の猛暑で店頭販売が好調だった流れで順調、競泳用は「オリンピックイヤー効果」を享受して機能品が堅調。「ヨガ」向けのニットは国内需要にやや一巡感が見られるが、輸出は堅調に推移した。

産資用：タイヤコード用は織物・強力糸の輸入が高水準で殆どが海外からの調達。カーシート用は自動車生産の停滞、合成皮革の浸透によりファブリックの苦戦が続いた。カーテンは学校、ホテル向けなどのコントラクト需要は順調だったが、一般家庭用は低調に推移。土木関係は公共投資一巡で在庫過多の状況。建築関係は土木に比べて順調、4年後の東京オリンピックを控え、首都圏再開発などを背景に安定した需要が見込める。

フィラメント輸出：3,750 トン・前年比 1.9%減、フィラメント輸入：3万1,719 トン・2.6%減。

#### <ポリエステルS>

2016年第1四半期のポリエステルステーブルの生産は3万271 トン・前年同期比16.3%減、3月末在庫は1万9,663 トン・前年同月比9.3%増。

紡績：主力のユニフォーム・ワーキング向けは備蓄が完了して不振が続いた。中東民族用(トーブ)は数量を確保したが円高の進行や同地域の景気悪化が懸念された。製綿：合繊メーカーの生産縮小で韓国からの固綿用バインダー繊維の輸入が増加。2月の冷え込みで引き合いがあったが、ステーブルの出荷は全般低位で推移。

不織布：衛材用は中国向け紙おむつ・生理用品の製品輸出はややペースダウンした。昨年始まった中国、インドネシアからの衛材向け不織布原反輸入が今年に入って増加。生活資材用はステーブルの出荷は堅調だが、貼布剤が健康保険適用外になる可能性もあり不透明感が強い。車両資材は国内自動車生産の停滞が続くが、新しく吸音材に採用された。合繊メーカーの海外移転の影響で再生メーカーの原着わたの生産がタイト化。湿式不織布は中国での家庭用浄水器の需要の急拡大により、RO膜の支持体向けが好調に推移した。

原綿輸出：5,538 トン・前年比 21.3%減、原綿輸入：1万2,513 トン・41.3%増。

#### <ナイロンF>

2016年第1四半期のナイロンフィラメントの生産は2万2,124 トン・前年同期比5.0%減、3月末在庫は1万993 トン・前年同月比0.3%増。

衣料：パンスト・タイツはインバウンドが需要を下支えした。ハイテンションニットはストレッチ機能を持つポリエステル織物に代替されて国内向け、中国向け輸出共に不振。ウインター・アウトドアなど高密度織物の輸出は米国向けが好調だったが、欧州向けは暖冬の影響で、韓国向けも消費が冷え込み共に低調。国内アウトドア向けはスポーツアパレル間で「勝ち負け」がはっきりし、全般盛り上りに欠けた。非衣料：キャッププライ用はスタッドレスタイヤが暖冬のため販売が伸びず低調。バイアスタイヤ用は中国向け「農機具用タイヤ」が好調。エアバッグは日本、アセアン、中国の自動車生産の停滞により、原糸輸出が伸び悩んだ。タカタのリコール問題が大量の追加件数発生で更に深刻化した。カーペットは足元が一服しているが、インバウンド向けホテルや大型商業施設の完工に期待、車両用は自動車生産の停滞やPPの浸食で苦戦が続いた。

フィラメント輸出：9,148 トン・前年比 7.5%減、フィラメント輸入 8,095 トン・1.5%増。

#### <アクリルS>

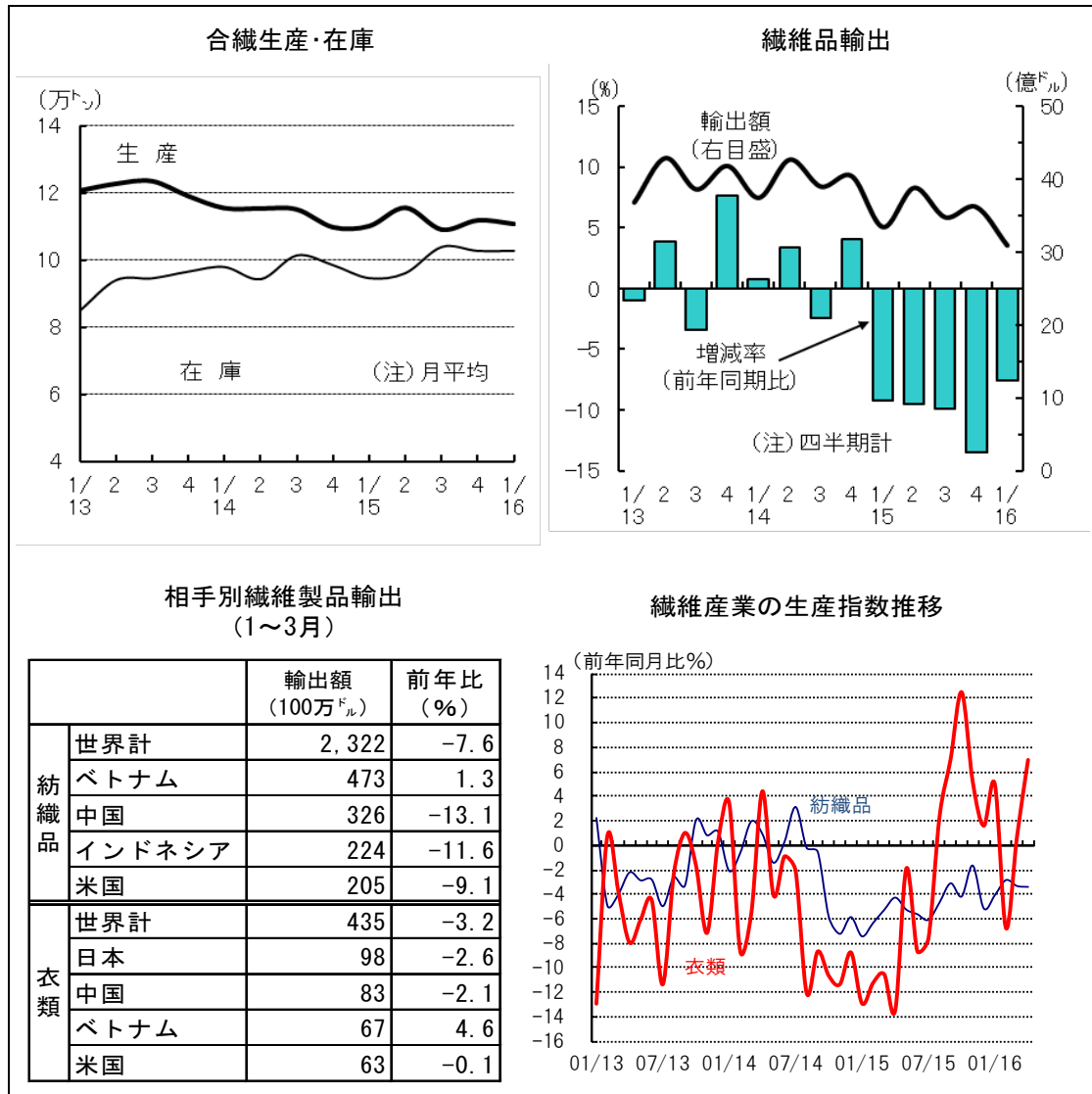
2016年第1四半期のアクリルステーブルの生産は3万951 トン・前年同期比1.7%増、3月末在庫は8,875 トン・前年同月比11.3%減。

衣料用：15年シーズンの保温肌着は暖冬の影響などで店頭販売が盛り上がりなかった影響もあり1-3月のステーブル出荷は前年を下回った。国産アクリル使いのセーターは、QR対応品に限定された。靴下は大手SPA向けが安定、大手問屋向けは縮小が続く。

建寝装用：毛布は「ジャパंकオリティ」を強調した純国産品への取組みが重要であるが、スペース確保が課題。長繊維化が進むカーペットは水回り品が残る程度。

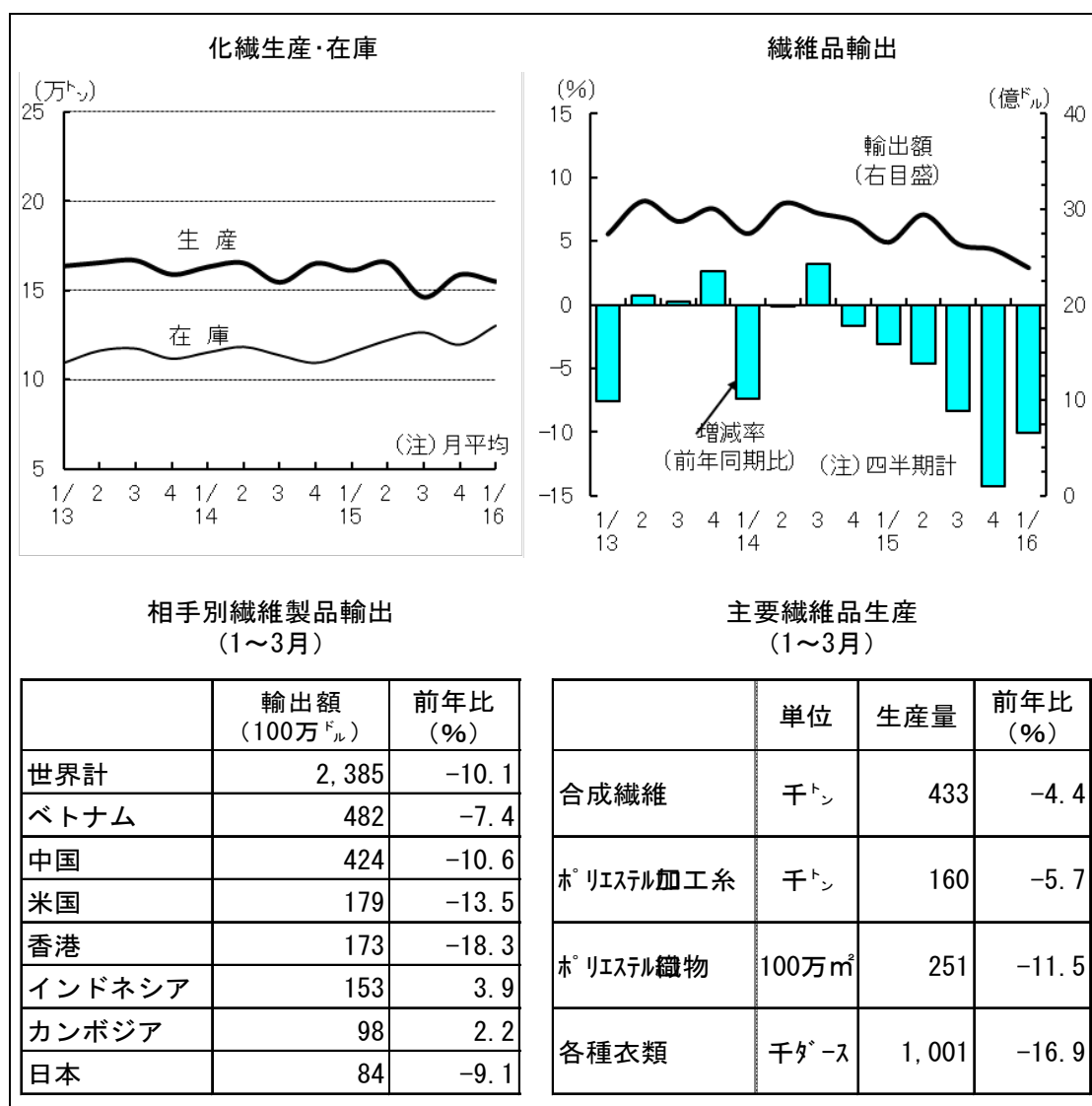
輸出：最大仕向地の中国が1万6,792ト、前年同期比（以下同じ）2.7%増となったが、主力のフェイクファー用は中国生地メーカーの生産過多による川中、川下の在庫が積み上がり苦戦した。欧米向け再輸出の立ち上りも「暖冬」やロシアの景気悪化で低調に推移。一方、中国ではセーター向けを中心としたレギュラーわたが、粗原料AN価格の急落でポリエステルSとの価格スプレッドが縮小したため、ポリエステル綿混からアクリル綿混への回帰が一部で起こり、需要が拡大した。

7) 韓国



- ◆ 化繊生産は微増であったが、繊維品輸出は続落、繊維業況は全般的に低調であった。
- ◆ 第1四半期の合繊生産は前年同期比0.6%増の33.2万ト、微増ながら9期ぶりに前年実績を上回った。
- ◆ 第1四半期の繊維品輸出は7.6%減の30.9億ドルとなった。1~4月の繊維製品輸出を相手別にみると、紡織品は最大の相手先であるベトナム向けは1.3%増であったが、中国、インドネシア向けは2桁減となった。衣類は、ベトナム向けは続伸したが、日本、中国など主力市場は下落した。第1四半期の繊維品輸入は0.8%減の34.5億ドル、2015年後半より、韓国の繊維品貿易バランスは入超が定着しつつある。
- ◆ 直近(2016年4月)の繊維品の生産指数をみると、紡織産業は下落したが、衣類産業は上昇している。

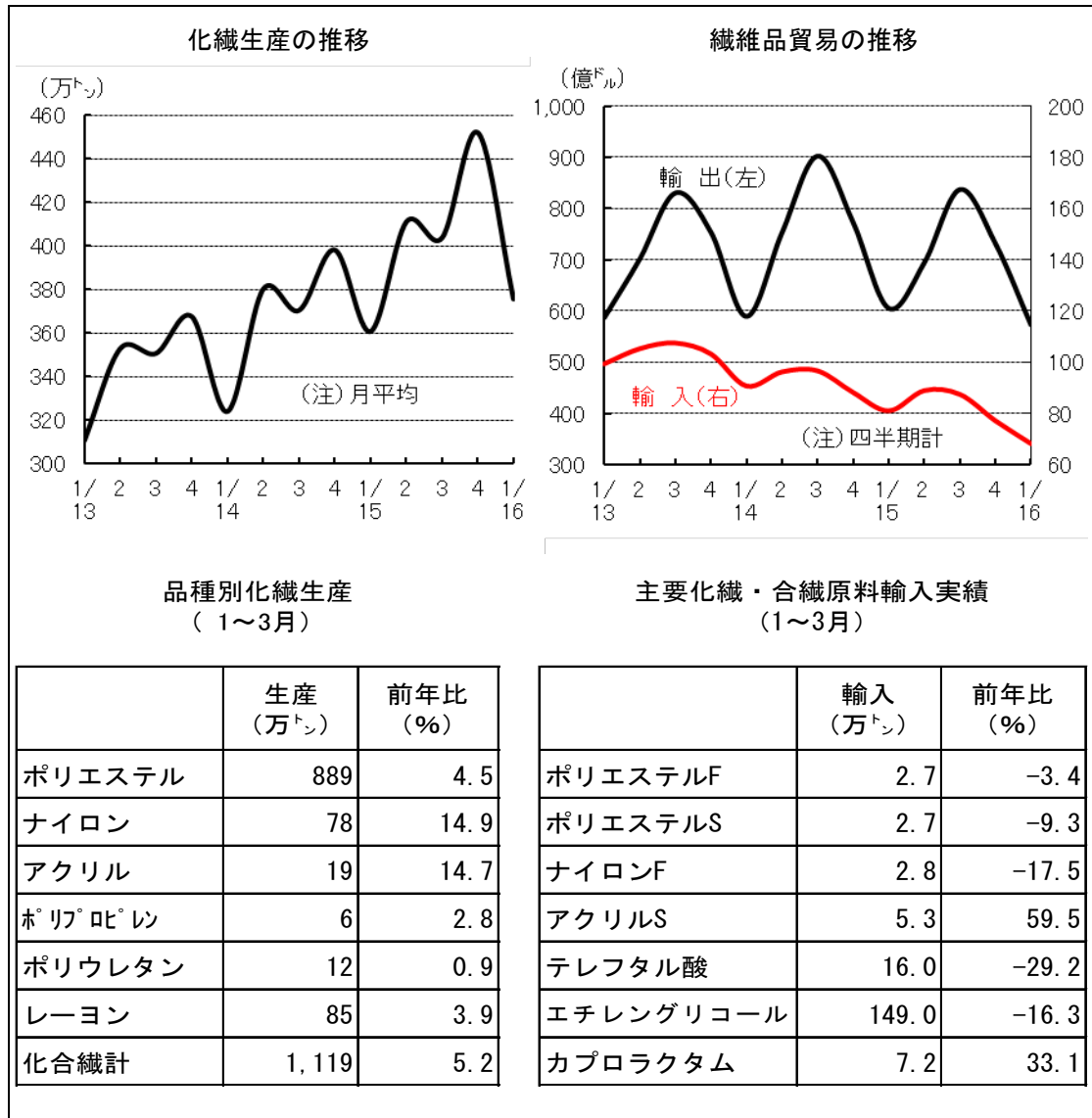
## 8) 台 湾



- ◆化繊生産、繊維品輸出とも続落、繊維産業の規模減少が続いている。
- ◆第1四半期の化繊生産は前年同期比3.9%減の46.5万トンとなった。主要合繊4品種は、微増のアクリルスを除き、前年実績割れとなった。
- ◆第1四半期の繊維品輸出は前年同期比10.1%減の23.9億ドルとなった。1～3月の繊維品輸出を相手別にみると、上位市場は軒並み前年実績割れ。ベトナム向けは7.4%減、中国向けは10.6%減、米国向けは13.5%減となった。一方、繊維品輸入は、同5.0%減の8.2億ドルとなった。
- ◆1～3月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は5.7%減、ポリエステル織物は11.5%減、衣類は16.9%減といずれも減少となった。



9) 中 国



- ◆化繊生産は増産が続くもその伸びは鈍化、繊維品輸出は減少が続いている。
- ◆第1四半期の化繊生産は前年同期比5.2%増の1,119万トとなった。品種別にみると、主力のポリエステルは同4.5%増の889万ト、ナイロンは同14.9%増の78万ト、アクリルは同14.7%増の19万トとなった。なお、同期間の紡績糸生産、織物生産は5.8%増、2.1%増と低い伸びにとどまった。
- ◆第1四半期の繊維品輸出は前年同期比5.3%減の573億ドルとなった。一方、輸入は同15.8%減の68億ドルとなった。
- ◆1~3月の合繊原料輸入は、テレフタル酸、エチレングリコールは減少したが、カプロラクタムは増加した。また、アクリルSの輸入が急伸した。

相手別繊維製品輸出 (1~4月)			繊維業界の主要指標 (1~4月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	775	-2.7	企業数	万社	3.8	-
アジア計	367	0.2	赤字企業数	万社	0.6	2.1
日本	64	-8.0	主要業務収入	億元	20,863	4.5
香港	45	11.4	うち化繊産業	億元	2,198	0.5
アセアン	107	-3.1	利潤総額	億元	1,037	5.9
ベトナム	40	-16.7	うち化繊産業	億元	77	-5.0
EU	132	-5.2	繊維産業実際投資	億元	3,003	11.5
米国	122	-1.0	うち化繊産業	億元	308	3.2

社会小売財消費総額 (1~5月)				繊維関連物消費者物価指数 (1~5月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同期比 (%)
商品売上総額	億元	129,281	10.2	消費者価格指数・全製品	2.1
うち繊維品等	億元	5,650	7.0	消費者価格指数・衣類等	1.6

- ◆1~4月の相手別の繊維製品輸出は、全体で前年同期比2.7%減、アジア向けは0.2%の微増となった。日本向けは同8.0%減と続落、これまで好調であったベトナム向けも大幅減となった。欧米向けは、EU向けは同5.2%減、米国向けは同1.0%減とともに減少した。
- ◆1~4月の繊維産業の主要指標は、主要業務収入は前年同期比4.5%増、利潤総額は5.9%増と引続き堅調であった。但し、化繊産業は業務収入、利潤総額とも不振となった。繊維産業の投資は同11.5%増と2桁の伸びが続いているが、供給過剰のみられる化繊産業は3.2%増とその伸びが大幅に鈍化している。
- ◆1~5月の衣料用内需は前年同期比7.0%増と引続き堅調に推移した。衣類等の消費者物価指数は前年同期比1.6%上昇した。

## 合織4品種需要実績(2016年1～3月)

### I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2016年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	23,075	92.9	97.3
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	37,350	95.0	93.3
	計 (輸入)	60,425 (31,719)	94.2 (91.4)	94.8 (97.4)
輸出 (原系、加工系)		1,725	88.5	99.7
需要計		62,150	94.0	94.9
在庫		10,657	90.2	93.9

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### II. ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2016年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	4,497	88.9	71.7
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	33,972	89.0	97.3
	計 (輸入)	38,470 (12,513)	93.9 (99.9)	100.3 (141.3)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		2,930	106.0	65.8
需要計		41,400	94.7	96.7
在庫		19,663	100.5	109.3

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2016年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,651	103.6	93.1
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,187	93.2	98.5
	計 (輸入)	22,838 (8,094)	95.6 (91.6)	97.1 (101.6)
輸出 (原系、加工系)		7,243	103.8	106.6
需要計		30,081	97.4	99.2
在庫		10,993	102.6	100.3

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### IV. アクリルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2016年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	6,578	118.0	88.0
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,044	129.0	107.4
	計 (輸入)	8,622 (190)	120.5 (86.8)	92.0 (118.0)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		24,358	99.9	103.7
需要計		32,980	104.6	100.4
在庫		8,875	80.1	88.7

(注)国内需要の( )内数値は輸入量